



アオザイ

認定 NPO 法人
日越関西友好協会

所在地 大阪市中央区博労町 1 丁目 4 番 10 号
エステート博労町ビル 3F

TEL 06-6266-0562 FAX 06-6266-1192

URL <http://jva-k.org/>

E-MAIL jva@cure.ocn.ne.jp

発行責任者 石黒博俊

ホーチミン市の中学生サッカーチームを 大阪に招待して日本中学生サッカーチームと 交流戦が開催されました

認定 NPO 法人日越関西友好協会の理事である鴻池運輸(株)がベトナム進出 20 周年記念事業としてホーチミン市の中学生サッカーチームを大阪に招待して日本中学生サッカーチームと交流戦をする「鴻池カップ」の取り組みが開催されました。10 月 5 日からホーチミン市で総勢 16 チームによる総当たりの予選会を実施し優勝した「N q u y e n T D i n h」チーム(グエン ティー デイエン中学校)を大阪に招待し 11 月 16 日堺市内の「Jグリーン堺サッカー場」で開催され友好交流を深めました。

当日は鴻池運輸(株) 藤原一見取締役副社長や レー・クオック・ティーン在大阪ベトナム総領事が挨拶をされたあと秋晴れの晴天のもと懸命のプレーが展開されました。

試合結果

大阪市立鯉江中学校チーム	対	ベトナムチーム	0 : 6
奈良生駒市アスペガス FC チーム	対	ベトナムチーム	1 : 0

後援は 認定 NPO 法人日越関西友好協会をはじめ ベトナム総領事館 大阪市・大阪市教育委員会 NPO ユナイテッド平野スポーツクラブ等です。

ベトナム新歌舞劇

「音楽カイルオン団」公演が盛大に開催！

ベトナムの越日国交40周年記念文化交流実行委員会が主催し認定NPO法人日越関西友好協会が後援して5月9日クレオ大阪中央と5月11日神戸新聞松方ホールで盛大に開催されベトナム歌謡曲を日本とベトナム人参加者が共に楽しみました。

越日友好議員連盟一行歓迎夕食会を開催

トー・フィ・ルア（ベトナム共産党政治局員）を団長とするベトナムの越日友好議員連盟の一行20名が8月3日大阪を訪問されましたので認定NPO法人日越関西友好協会とベトナム総領事館の主催による歓迎会を堺市内で盛大に開催しました。

主催者を代表してティーン総領事が挨拶したあとベトナムの越日友好議員連盟会長でありベトナム共産党の大幹部であるトー・フィ・ルア（ベトナム共産党政治局員）が挨拶、小河大阪府副知事が来賓者を代表して歓迎あいさつ、狭間堺市副市長の乾杯挨拶のあと参会者一同楽しく懇親を深めました。当日の主な来賓参加者は竹本直一衆議院議員、尾立源幸参議院議員、左藤章衆議院議員夫人、小林義彦関西経済連合会国際部長、丸山新二大阪商工会議所国際部長、大阪府議会日越友好親善議員連盟樋口昌和副会長・三田勝久事務局長、楠本大阪府国際交流監の皆さんです。

ピースおおさか「終戦の日 平和祈念事業」が 盛大に開催されました

日越外交関係樹立40周年事業としてピースおおさか（会長・武者小路公秀）の主催・認定NPO法人日越関西友好協会およびベトナム総領事館後援による講演と歌で検証する「戦争」と「平和」のつどいが8月4日ピースおおさかで盛大に開催されました。この催しについては当協会顧問でありピースおおさか理事である「もず唱平」氏が尽力して開催されました。

越日外交関係樹立40周年事業

「ベトナム文化の夕」

日越外交関係樹立40周年事業として9月17日にリーガロイヤルホテル大阪において、9月18日には神戸ハーバーランド 神戸新聞「松方ホール」において「ベトナム文化の夕べ」が盛大に開催されベトナムの歌謡曲や舞踊・曲芸アオザイのファッションショーなどを楽しみました。鑑賞された皆さんから賞賛の大きな拍手が寄せられていました。

寄付金の税金控除が受けられます

NPO法人日越関西友好協会は平成24年9月20日付で所轄庁から認定を受けた団体です。よって個人もしくは法人の当協会に対する寄付金は税金の確定申告をすることにより①個人の寄付金控除（所得控除）はその年の特定寄付金の合計額－2千円＝寄付金控除額、もしくは②個人の寄付金特別控除（税額控除）はその年に支出した当協会への（寄付金の合計額－2千円）×40%＝寄付金特別控除額のいずれか有利な方を選択して控除できます。

なお法人については支出した寄付金を一定の限度額まで損金算入できます。

これらの控除を受けるには当協会が発行した寄付金受領証明書を確定申告書に添付することが必要です。

詳しくは別紙国税庁のチラシをご参照ください。

パンフレットの発行

認定NPO法人日越関西友好協会の組織や活動を紹介するパンフレット日本語版の改訂版・ベトナム語版を発行しました。

会費納入のお願い

平成25年度会費を納入いただきますようご協力をよろしくお願いたします。皆さまからいただいた会費はベトナムとの友好・支援活動に活用させていただいております。

郵便局の「振替払い」を取り扱いさせていただいています。払込料は当協会負担ですのでご利用下さい。（振込用紙を同封しています）

以降の記事は「SMBCニュースレター」等からの転載です。

はっきり回復の兆しが見えない、ベトナムの不動産市場

先日ホーチミン市内にある高級マンションのオーナーが、2件続けて販売価格を半分に引下げると発表し、マスコミで話題になりました。専門家はこの影響を受けて、他の不動産もさらに価格が低下するのではないかと予測しているようです。

不動産市場が低迷すると、他の産業にも大きな影響が及びます。鉄鋼やセメントといった産業はもちろんですが、その中の1つに盆栽市場があります。つい2～3年前までベトナムの大金持ちの間では盆栽が大流行。「盆栽」といっても、波平さんが庭でいじっているような小さなものではなく、直径1～2メートルありそうな鉢に木が植わっていたりする大きさです。新築の家に数千万円、時には数億円もする盆栽を飾る人が多くいました。特に不動産市場が調子の良かった時期には、盆栽の価格も高騰。「風水的に良い」と言われる盆栽がどんどん値上がりし、ただどんなに値段を吊り上げて、売り手が見つかるという状況でしたので、投機目的で購入する人も少なくなかったようです。2010年末に新しくできたばかりのハノイ博物館の前で、盆栽の展示会が開催されていましたが、これが5千万、あれは1億円という感じで雑多に鉢が置いてあること、また大部分に「売却済」の札が貼られていることに驚いたことを覚えています。

しかし、当時の「盆栽成金」たちは今どうしているのでしょうか？盆栽卸業者の中でも有名だったAさんは、自宅の庭にも高価な盆栽を沢山並べていたそうですが、不動産市場が凍結した今、在庫を抱えて途方にくれているそう。

綺麗だった自分の庭の盆栽も手入れを忘れ、かつて数千万円の値がついた盆栽が、薪のように枯れてしまいました。以前は高級車を乗り回していましたが、今は借金に追われ、中古のバイクが最後の財産、というような状態に陥っているとか…。最近では高級物件よりは、そこそこの価格の物件の方が人気があるようで、盆栽業者さんが息を吹き返すには時間がかかりそうです。

おしん>お母さん？

初めて放映されたのは1994年のこと。大変な人気を呼び、ベトナム人で「おしん」を知らない人はいないといっても過言ではありません。またご存知の通り、ベトナムでは「おしん」はお手伝いさんを意味する単語として使われています。

「女性の活用」を叫ぶ日本とは違い、夫婦共働きが一般的なベトナムでは、都市部でおしんを雇うことが多く、特に6ヶ月の出産休暇が終わるとすぐに仕事に

戻る女性にとって、おしんは不可欠です。しかし赤ちゃんの食事、オムツ替え、お風呂、添い寝等々、ほとんど全てをおしんに任せているうちに、実の母親よりおしんに懐いてしまう、というケースも珍しくなく、最近メディアで取上げられるようになりました。

せっかく子供の誕生会を高級レストランで開き、親戚や友達を沢山招いたにもかかわらず、肝心の主役である子供はいつも面倒を見てくれるおしんがいないので、家に帰りたいと泣き叫んだことから、慌てておしんを呼び寄せた、とか、旧正月の間、おしんが故郷に帰ってしまうと、ほぼ毎晩赤ちゃんは泣いて泣いて寝つかず、ご飯も食べず、今度は義理の母や夫に責められるといった、お母さんにとってはなんとも辛い話が新聞上で数々紹介されています。ずっと一緒にいて面倒を見てくれる人により懐いてしまうのは、避けがたいことなのでしょうけれども、ベトナムの子供心理研究センターのPham Duc Chuan博士はこんな実態について警告しています。また、おしんというと地方出身者の場合が多いのですが、子供がやっと話し始めたと思ったら、おしんと同じ地方訛りで話すようになった、行儀も悪くて困っている、といったような相談も多いとか。おしんの教育を同センターでやってもらえないか、と頼む人もいます。お昼休みは2時間、帰宅時間は16時というような、のんびりした昔とは違って、経済社会の発展と共に忙しくなるベトナム人女性の生活。子供を自分で育てることは大切だ、とChuan博士は話していますが、どの女性もそうしたいのは山々でしょう。一方日系企業にとっても女性は貴重な戦力で、できれば女性にバリバリと働き続けて欲しい、というのが本音。となると…、頼みはコーヒー飲んでダベってるベトナム人男性…でしょうか？

美の報償

女性が美しくなりたいという願望は恐らく世界共通だと思いますが、ベトナムでも特に最近、1人当たりの所得が増えるに連れ、女性達は美しさを求めて美容整形に頼るようになりました。美容関連ビジネスは急拡大しており、明確な統計数字はありませんが、ホーチミン市では毎年美容整形を受ける人数が10万人以上に上る、という説もあるそうです。以前は外国人向けが多かったエステや美容サロンも、街中到处で見られるようになりました。韓流ドラマの影響を受けてか、小さい顔になるためにあごを削り、目を二重にするプチ整形も流行っているようですが、中には欧米スタイルの美しさに憧れて、豊胸整形や脂肪吸引を行なう女性も多いそうです。人間、やはりないものねだりなのでしょうね。またベトナムの特徴としては、美容整形を行なう女性の年齢層がやや高め、中年層に集中、若返りの美容整形が人気を呼んでいる点が挙げられます。

ただそんな風潮に冷や水を浴びせるような事件がハノイで起こりました。ある医師が美容整形手術の最中に亡くなってしまった患者を、川に捨てて証拠隠滅を図ったのです。以前から美容整形については法律が整備されておらず、無免許の医師やあまり経験のない医師が手術を行なうなど、危険性を警告する声が聞かれていました。今回執刀した医師はハノイ市でも有名な公立病院の外科医で、医師免許はあるものの、美容整形専門ではなかったそうです。また手術場所も病院ではなく、彼がオーナーである美容サロンでした。この医師はショック症状を起こして亡くなった女性を、サロンの警備員と一緒に紅河(Song Hong)まで運び、バイクも一緒に沈めましたが、帰ってこない妻の行方を心配した夫が警察に捜索願を出したところ、携帯電話や鞆の入ったバイクが発見されたそうです。

事件発生から既に3週間が経ちましたが、まだ遺体は見つかっていません。有名公立病院の医師がこんな残酷な事件を起こしたことは、全国を震撼させ、美容整形の危険性がマスコミで多く取上げられています。さらに医療に対する管理体制や質、医師の道徳に関して、監督機関である保健省に対して、多くの批判やコメントが寄せられ、個人間の事件ではありますが、保健省が謝罪コメントを発表しました。この事件を受けて美容整形が下火に・・・うーん、果たしてなるのでしょうか？

【2013年10月28日～11月3日のベトナム関連ニュースより】

HSBCが年初から8ヶ月間で、ベトナムドンは中国元、香港ドルに次ぐ安定したアジア通貨だったとの見解を示し、国家金融監督委員会も金融市場は前向きな変化を見せていると評価する一方で、財政収支が厳しい状況にあるとのこと。なお、9月末時点での銀行貸出残高増加率(昨年末比)は6.82%、不良債権比率は各銀行の報告ベースで8月末時点で4.6%相当となっています。また、ロシア最大の国営石油会社であるRosneftが、ベトナムのNhon Hoi製油所案件に投資を予定するタイ企業・PTTの戦略的パートナーとなる意思を示しました。そのほか、自動車業界の最新発展計画が最近政府に提出されましたが、商工省によると今回の草案では市場の拡大に焦点を置いているとのこと。先日開催されたベトナムモーターショーでは過去最高の来場者を記録。またノキアが10月28日、携帯電話製造工場を稼動しています。

【2013年10月21日～27日のベトナム関連ニュースより】

この週から国会が開会となり、Dung 首相は今年のGDP成長率の見通しを5.4%と発表した上で、2015年までの平均成長率は6%、1人当りのGDPを2,200～2,300米ドルを目指すことを明らかにしました。2014年についてはGDP成長率が5.8%、

CPI上昇率は7%とのこと。一方でANZもGDP成長率予測を発表しましたが、今年は5.1%と世界銀行や国家金融監督委員会などの予測と比べても、悲観的な見通しを示しています。また財務省によると、今年は歳入が目標を下回るとの予測で、計画投資省と共に、国会に対し財政赤字のGDP対比上限引上げ、及び国債の追加発行を提案しました。一方でこの週は各種経済統計指標が発表となりましたが、CPIは前月比+0.49%と伸びが鈍化、貿易収支も1.87億米ドルの赤字にとどまっており、FDI認可額は昨年同期比を65.5%上回りました。また中銀が外貨を買増しており、外貨準備高は320億米ドルまで増加した可能性もあるとのこと

ベトナム結婚事情

中国では一人っ子政策の影響か男女の人口バランスが大きく崩れ、33歳の独身男女の場合、その割合は3:1とも言われるほど。ここベトナムでも最近このような傾向が見られることが話題に上りますが、ベトナム人男性が結婚相手を見つけるのに苦労する理由は他にもあるようです。

ハノイから100キロ離れた港町、ハイフォン市のクアン・ムック村では、最近村人が村長をある理由で訴えてニュースになりました。彼が訴えた理由とは「1人息子が結婚できないから」です。彼の息子には2年間付き合っていた彼女がいましたが、婚約直前に彼女が韓国人と結婚することを選び、別れてしまったとのこと。この村では既に800人もの女性が外国人と結婚して村を出ており、当然女性が不足している状態で、独身男性の平均年齢がベトナムでは珍しく30歳を超えています。この1人息子も35歳。早く孫の顔が見たい父親は焦って、「村が何もしないから、みんな外国人と結婚してしまう」と騒いだわけ。村長によると、娘が2人いてもそろって外国人と結婚してしまうという家族も多く、村の男性は他の土地で結婚相手を探すか、付き合っても2、3ヶ月程度でも結婚に持ち込む、といった手段を選ばざるを得ない状況だそう。村長も同情はするが、打つ手はないとお手上げのようです。

ジェンダー・女性研究センターのLe Thi Quy所長によると、最近北部ではハイフォンやハイズオン、南部ではメコンデルタ地域で外国人と結婚する女性が急増しているそう。Quy所長はこの現象について、単にブームというわけではなく、結婚に対する見方、価値観が変わったからではないかと説明しています。外国人と結婚した女性を「お金に釣られたからだ」と責めるのは間違っており、むしろベトナムの社会的な問題が背景にあると指摘、もし男性が自分の行動に気をつけて、暴力を振るうことなく、奥さんや子どもを大事にするなら、女性もベトナム人から結婚相手を探すのではというのがQuy所長の意見。外国人と結婚

したベトナム人女性にアンケートをとった結果、83.6%の人が「満足している」と答えたというデータもあるそうです。うーん、ベトナム人男性、分が悪そうですね…。

台風一過

ベトナムで台風が増える10月・11月。先日もフィリピンを襲い、甚大な被害を出した超巨大台風「ハイヤン」がベトナムにも上陸するというので、ハイ副首相や農業・地方開発省大臣が準備状況を視察するために北中部を訪れるほど、中部から北部の海岸線で嚴重な警戒態勢が敷かれ、ハノイでは小・中学校が急遽休校になりました。日系企業の中にも操業を停止したところがあったようです。結局日曜晩から月曜朝にかけてベトナムを横断しましたが、勢力をかなり弱めて、中国南部へ抜けたため、ハノイ市内では昼過ぎから晴れ間が覗くほど。14名の死者(4名が行方不明)が出たものの、ありがたいことにフィリピンのような大災害に見舞われることはありませんでした。ただ、休校になった生徒にとっては思いがけないお休みだったかもしれませんが、突然の休校に慌てて子供の面倒を見てもらう人を探さなければいけなかった働くお母さんは大変だったようです…。

実は先月中旬にも台風「ナリ」がベトナム中部を直撃し、その際には18名が死亡、3人が行方不明と野被害が出ました。ベトナムでは中部から北中部にかけて台風が直撃することが多く、比較的この地域は経済状況が厳しいこともあり、全国から多くの物資の支援や募金が集まったそうです。

そんな中、ナリの被害を受けた中部の人々にある贈り物がありました。空から降ってきた魚？桶屋の恩返し？？さて、一体なんだと思いますか…？答えは木材です。洪水によって溢れた水が引いてみると、底に残ったのは洪水と共に上流にある森から流れてきた大量の木材。中には半径数10センチの大型のものもあり、家や財産を流されてしまった人達もこの木材を拾って、収入の足しに出来たそう。今回の台風はまたもや中部を直撃すると思われましたが、幸い北部に向って弱まったため、フェイスブックなどのソーシャルネットワーク上では、ハイヤンの情報をお互いシェアしながら、中部に台風が来なかったことを喜ぶ声が多かったそうです。大変な台風ではありましたが、そんな時期だからこそ、なんだか温かい気持ちになれるお話でした。